

全日本インカレ in 蒲郡

〔1日目〕

全日本インカレレース1日目は、中風～微風でのレースが展開され、難しいコンディションの中、両クラスとも3レースを消化しました。国際470級、国際スナイプ級共に強豪校にも劣らない順位を勝ち取り、全国でも十分に戦える実力を感じた反面、ミスで大きく順位を落とす場面も見られました。この日は総合4位という成績で終わりました。3レースで浮き上がってきた課題をしっかりと反省し、次の日に備えました。(川端)

〔2日目〕

レース2日目も微風～中風のコンディションの中、4レースが消化されました。第5・6レースでは、九大の艇が前を走るという九大支援艇からの速報を聞き、陸でも歓喜の声が上がりました。総合では5位という成績でこの日を終わりました。大会の半分が経過し、選手・サポートメンバー共に疲れがたまってきた様子でしたが、宿でしっかり疲れをとり、残り半分のレースに向けてそれぞれが万全の準備を心がけました。(濱田)

〔3日目〕

レース3日目は朝からほとんど風がない状況でした。陸上でAP旗が掲揚され、しばらく風待ちをしました。お昼を過ぎた頃に少し風が上がり始め、出艇できることを期待していましたが、その後APA旗が掲揚されたためその日はノーレースとなりました。レースができなかったことは残念でしたが、朝から多くの先輩方や保護者の方々がご声援に駆けつけて来てくださりました。レース

最終日に向けて、気持ちを高められた1日となりました。(寺井)

〔4日目〕

いよいよ全てが決するという緊張感の中、迎えた大会最終日。予告信号時間が変更され予定より早くD旗が掲揚されましたが、なかなか風が安定せずこの日1本目のレースは午前11時ごろに始まりました。九大はここで両クラスとも1番艇がシングルをとるなど大躍進し、この第8レースを終えた時点で一つ上の同志社大学を抜き総合4位に躍り出ます。その後、470の予告信号が最終時刻の直前で発せられ、470のみ第9レースが行われました。しかし九大は最後に踏ん張りきれず、同志社大学に抜かされ総合5位という結果になりました。残念ながら今まで目標としてきた総合優勝には届きませんでしたが、国立大でも安定して総合入賞できるという事実を全国に残すことができました。(岩原)



インカレ Best Shot!

今大会で撮った写真をピックアップして紹介します!(寺井)



肩を組み、気合入れの声出し!



蒲郡の青空とずらりと並んだヨットを背景にはためく
九大ヨット部の旗▶



ご声援に駆けつけてくださった先輩方と一緒に!



レースでは真剣ですが、お茶目な一面を見せて
くださった一枚!心が和みます

この他にも、いい写真がたくさん撮れました!ぜひ、ホ
ームページの「ギャラリー」でご覧ください!!

宿のご飯🍱



蒲郡遠征の楽しみの一つがこの豪華な夕食です。お肉、
焼き魚、鍋物に加え、刺身やデザートまであり、完食
するのに必死でした。翌日に備えてしっかりエネルギ
ーを蓄えることができました。宿の皆さん、美味しい
ごはんをありがとうございました。(濱田)

今後のイベント 冬練習🍷

今後は、冬の練習が始まります。冬の海は想像以上の
寒さです。防寒対策をしっかりと行い、部員全員が健
康な状態で練習ができるように、各個人が体調管理を
意識していかなければなりません。この冬で選手・ス
タッフともに更なる成長を遂げたいと思っています。
応援よろしく申し上げます!(川端)

永野主将率いる新九大ヨット部、始動!!

今年度スローガン **超戦**

～昨日の自分を超えよう。偉大な先輩方を超えよう。

そして、強豪校を超えよう。～

インカレが終わると待ち受けているのが、4年生の先輩方との涙の別れ、そして交代代…

ということで、各部署のリーダーの方々の今年度の意気込みをご紹介します。

《主将兼 470 クラスリーダー 永野俊輔》

これから1年間470リーダーとして技術面で引っ張るのはもちろんのこと、主将として、九大が日本一にふさわしいチームとなれるよう尽力して参りたいと思います！応援よろしくお願ひします！

《副将兼 SNIPE クラスリーダー 西島孝》

まず、副将としては、「とにかく走ること。」です。SNIPE リーダーとしては、チームの目標である「全日本インカレ団体戦でメダルを取る。」を達成するために、技術の徹底的な分析・向上を図っていきます。スローガンの「超戦」にあるように、昨日の自分、先輩方を超えられるように、行動していきます。

《マネージャーリーダー兼広報部長 岩原桃子》

広報の重要な役割は部外にヨット部の活動を発信し続けることで、これは大会時でも平時でも常に行われなければなりません。地道な広報活動が応援してくれる人を増やし、その方たちのご協力で九大ヨット部が日本一に近づくからです。また、このことは他の部署も同様に言え、マネージャーそれぞれの役割が日本一に繋がっています。その責任とやりがいをみんなに感じてもらうことこそが、マネージャーリーダーの仕事だと思っています。

《レース技術部長 西山彰》

この部署は、チーム全体の練習の質を高めるための部署です。私はこの部署にいることを誇りに思っています。九州大学ヨット部を総合優勝させるために、常に考え続けることを、同期から任されたからです。僕がこの一年大切にしていきたいことは、チームで超えていくことです。責務をまっとうします。以上です。

《主務部長 渡邊由紀乃》

主務部は外部との連絡や行事の運営、また今年は部内活性化活動も担っています。活動の基盤となる重要な役目であるという自覚と責任を持つことに加え、如何に効率的に楽しくより良い仕事ができるのか、主務部4人で常に考え続けたいと思います。

《会計部長 栗原瞳》

今年度もヨット部の予算は多額なものとなっております。そのため、一人一人の負担も大きいです。そういった部員の金銭的負担が軽減できるように、選手がよりヨットに集中できる環境を作れるように、試行錯誤しながら様々なことに取り組んでいきます。

《遠征計画部長 川野由美子》

今年度の遠征は4回予定されています。確実に遠征を終えることは勿論、負担を減らせないか、固定概念に囚われていないか、模索し続けたいと思っています。3年という立場に甘んじることなく西宮が最高の舞台になるよう頑張ります！

《練習安全部長 鹿野千尋》

今年は「物を大切に」ということを特に徹底したいと思います。九大ヨット部はこんなにも主体性がある人が集まっているのに、なぜここに関してはみんな人任せなのか…。今年1年はその意識改革をしていけるように、練習安全部一同頑張っていきたいと思います。

《学連部長兼学連委員長 都田悠輔》

学連委員長を務めさせていただくので、計測や登録、大会準備を責任を持ってミスなく取り組み、大会での挨拶をビシッと決められるよう頑張ります！選手としてはクルーでスナイプのメダルに必ず貢献します。1年間よろしくお願ひします！

《七大戦部長 三上雄大》

来年7月13~15日にかけて、七大戦が小戸で開催されます。主幹校として精鋭8人による七大戦部隊を結成し運営を行います。日本一を目指す九大にとって、来年は9連覇をかけた負けられない戦いです。そのためにも円滑な運営は必須となり、七大戦部隊を中心に主幹校の責任を果たします！